

自己評価結果票

| 項 目 | 事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する | 今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて) |
|---|--|--------------------------------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | |
| 1. 理念と共有 | | | |
| 1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「『であい、ふれあい、えがおの輪』を理念とし、「一人ひとりの生き方、その人らしさを尊重し、地域住民と共にパートナーとして支援する」ことを基本方針とし、地域の方々と積極的な交流を図り、施設内の行事・地域の行事への相互参加に努めている。 | ○ | 「であい ふれあい えがおの輪」が地域の皆さんに知っていただき、笑顔の輪がたくさん出来るように広めていきたい。 |
| 2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念・基本方針に基づいた年間目標を策定し、施設内ステーションに掲示し周知を図ると共に、その達成に向けた具体策を設定し、年2回評価し目標の妥当性を検討し日々取り組んでいる。 | ○ | 理念を念頭において日々のケアの実践に取り組みたい。 |
| 3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる | ご家族様や知人等・見学などで、当施設を訪問してきた方々に、理念が眼に触れるよう額にいれ、リビンググループに掲示している。またホームページやパンフレット、ケアホーム通信、家族会、運営推進会議などを通して、理念の理解を図っている。 | ○ | 地域、施設が密接な連携の下、入居者及び家族が安心できるよう理念を共有していきたい。 |
| 2. 地域との支えあい | | | |
| 4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 積極的に買い物・散歩に出かけたり、地域の行事(夏祭り、文化祭、運動会など)への出席、健康講座や「まちの保健室」を開設し地域の方々を招いたり、小学生や幼稚園児を受け入れ、お互いが馴染みの関係となり、道で行き交う時気軽に声を掛け合っている。 | ○ | 地域の方たちと、気軽に話しができるような場をたくさん作り、顔なじみの方たちと自然な形であいさつが出来るようにしたい。 |
| 5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会の賛助会員となり、地域活動に積極的に参加し、幼稚園・小学校行事の招待を受け、出来る限り参加している。自治会主催の「ふれあいサロン」にも参加予定である。 | ○ | 地域の方たちと、気軽に話しができるような場をたくさん作り、顔なじみの方たちと自然な形であいさつが出来るようにしたい。行事への参加は今後も積極的に参加する。 |

| 項 目 | | 事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する | 今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて) |
|------------------------------|---|---|--------------------------------|---|
| 6 | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 併設の老健が主催している「まちの保健室」に協力し、血圧測定、骨密度測定、血管年齢測定などを行い、測定値に基づき健康相談を行っている。「まちの保健室」は定期的開催し、そのデータを経時的に捕らえ、自分の健康指標にいただいている。 | ○ | 施設、職員の職能を活かした地域貢献が大切である為、今後も地域の方々に健康講座等に参加させて頂き、健康への関心を高めていきたい。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 第3者評価の必要性や意義について、職員に対しては、ケアホーム会議、家族に対しては家族会を通して説明し、理解を得ている。また、評価結果は職員、家族、運営推進会議などで書面を配布し、更にホームページで公表し、内容の説明を行うと共に、意見の聴取を行い、質の向上、改善に努めている。 | ○ | 外部からの評価は、施設にとって重要な情報である。運営、介護の質の向上に活用したい。 |
| 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 自治会長・市役所職員・市立病院看護副部長・利用者・利用者家族を委員として2ヶ月ごとに開催し、意見の交換を行い、サービスの向上に活かしている。 | ○ | 運営推進委員からの意見は、大変貴重である。委員からの意見を参考に質の向上への取り組みに活用したい。 |
| 9 | ○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市主催の研修・行事には積極的に参加している。宝塚市介護支援相談員が毎月来所し、ホームの活動状況や入居者の様子、行事への参加や意見交換を行っている。職員の一人が介護認定審査会委員として審査会に出席したり、介護保健運営協議会へも出席している。 | ○ | |
| 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 施設外研修に参加し、職員間での伝達講習を行い共有を図っている。入居時やキーパーソンの変更時及び家族からの申し出時に検討している。研修で得た情報を活用している。 | ○ | |
| 11 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止マニュアルを作成し、職員全員に周知徹底を図るとともに、施設内研修に参加し、入居者への職員の対応について、常に職員同士で話し合う機会を持っている。 | ○ | 虐待防止マニュアルの周知を職員が徹底し、入居者への人権尊重の視点を持って接する。 |

| 項 目 | | 事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する | 今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて) |
|------------------------|---|---|--------------------------------|---|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | |
| 12 | ○契約に関する説明と納得 | 入居を希望される時「入所のご案内」に基づき説明後、施設見学をしていただき、レクレーション等に参加し、ホームの雰囲気と共に日常生活の一部を体験していただいている。その後不安、疑問点を確認し、理解を深めると共に共通認識の下、重要事項・利用契約について説明し、了承していただいている。 | ○ | |
| | 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | | | |
| 13 | ○運営に関する利用者意見の反映 | 重要事項説明書にケアホーム宝塚の苦情窓口や担当者、市町村の窓口について明記し説明している。ホーム玄関には意見箱を設置し、手順に基づき開封し公表できるようにシステム化している。また毎月来訪される市の介護支援相談員にも、相談できる体制である。寄せられた内容は、ケアホーム会議・運営推進会議において検討し、ケアホーム運営の質の向上に反映させている。 | ○ | 利用者、ご家族の意見や苦情等の情報収集に努め、ケアホームの運営に反映させたい。 |
| | 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | | | |
| 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族の訪問時やケアホーム通信(毎月発行)、家族会、緊急の場合は電話にて、入居者の健康状態や、日常生活及び職員の異動等を随時報告している。また、各居室に個人アルバムを用意し家族来所時にみてもらっている。 | ○ | |
| 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 重要事項説明書にケアホーム宝塚の苦情窓口や担当者、市町村の窓口、公的団体の窓口について明記し説明している。ホーム玄関に意見箱を設置している。家族会やご家族訪問時に希望や意見、苦情などを伺った後、職員間で情報共有・話し合い、運営に反映するシステムとなっている。 | ○ | 常に利用者、ご家族の意見に耳を傾け運営に反映させたい。 |
| 16 | ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎日の申し送り、スタッフカンファレンス(随時)ケアホーム会議(1回/月)年間目標の評価時など運営に関する事項について協議・検討し、反映させている。いつでも管理者、または副施設長代行と意見交換できるシステムとなっている。 | ○ | 職員の意見や提案は、利用者の身近な存在として貴重であり、運営に反映させたい。 |
| 17 | ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 受診や買い物など家族が都合の悪い時は職員が同行したり、施設内、施設外行事の際には職員の勤務調整や、ボランティアの依頼、他部署からの応援などで必要人員の確保を図っている。 | | |

| 項 目 | 事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する | 今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて) |
|---|---|--------------------------------|--|
| <p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | <p>異動は必要最小限にとどめ、入居者との馴染みの関係が構築できるよう受け持ち制を導入している。異動後は重複勤務体制とし、早期に入居者との関係が構築、すみやかに業務が遂行できよう支援している。</p> | | |
| <p>5. 人材の育成と支援</p> | | | |
| <p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>新採用時には資料に基づきオリエンテーションを実施し、現場においては個別対応を基本とした、OJTを実施している。施設外研修に自主参加している。施設内研修は必ず出席出来るシステムとし、職員のレベルアップに努めている。</p> | ○ | <p>認知症ケアを充実し、ケアの質向上の為に、職員の実践者研修、勉強会への積極的参加を促していく。</p> |
| <p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>介護職員対象の研修会への参加、介護支援専門員研修、連絡会などの参加、市社会福祉協議会主催の研修会や宝塚市認知症サポーターの会に参加し交流を図りながら質の向上に取り組んでいる。</p> | | |
| <p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p> | <p>勤務表をはじめとする業務管理は個人的事情・健康管理の視点で実施している。個人面談では勤務上の悩みやプライベートの悩み等個人の抱える問題をひきだし聞き、必要時支援している。</p> | ○ | <p>ケア上の悩み、職員間の悩み等、職員が抱える悩みに耳を傾け、ストレスの軽減を図り働きやすい環境づくりに努めたい。</p> |
| <p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p> | <p>疲労やストレスの増強により、職員のモチベーションが低下しないよう、勤務表作成時に配慮し超過勤務を極力少なくするよう日々業務調整している。</p> | | |

| 項 目 | | 事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する | 今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて) |
|----------------------------------|---|--|--------------------------------|---|
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | |
| 23 | ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 相談時にはご家族と共にホームの見学や体験を通して不安の解消に努めるとともに、ホームで生活することへの希望を聴き、入居前から信頼関係の構築に努めている。入居後は担当者(受け持ち制)を決め、職員間で情報を共有し、日常生活に慣れ、感情を表出しやすい雰囲気作りに配慮している。 | | |
| 24 | ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 入居前には利用者と共に見学していただき、体験可能である。また、困っていることや不安があれば管理者や職員に電話、または来所していただき、お互い理解しあえるよう話し合う機会がある事を説明し、対応している。 | | |
| 25 | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 医師、看護師も同席し、医療・看護・介護上の視点から、サービス内容を見極め、必要時受診や、介護老人保健施設を紹介し、担当介護支援専門員と情報を共有しながら対応している。 | | |
| 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 職員全員、受け持ち職員の紹介を行い、声かけ、日常の会話、他利用者とのコミュニケーションが図れるよう支援している。時には家族様も参加していただき、受け持ち職員が中心となり時間を掛けて馴染めるよう工夫している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | ○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている | 基本方針「パートナーとして支援する」ことを基本とし、利用者、職員共に支えあいお互いの持てる力を発揮している。今までの人生において貴重な経験がされた方という尊敬の念をもち、先輩に学ぶ姿勢を持って対応している。 | ○ | 利用者の体験談や、日々の談話の中に職員も参加し、互いに学び取るものが多く共に支えあう関係を維持したい。 |

| 項 目 | | 事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する | 今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて) |
|-----|--|---|--------------------------------|--|
| 28 | ○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている | 入居者の生活歴を家族から情報収集し日常生活に取り入れたり、介護計画立案時には家族の方に参加させていただき、ご家族の要望などを伺いながら共に支援している。 | ○ | 介護計画作成時、ご家族様にも参加していただき共に支援する。 |
| 29 | ○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 訪問されたご家族に、近況を報告すると共に、毎月の行事報告をケアホーム通信で送付し、部屋にはホームでの生活がご家族にわかるよう、アルバムを置いている。またご家族からホームへの希望等意見を踏まえた支援に努めている。 | ○ | ご家族様の訪問時の職員との利用者の情報交換は、とても大切な事であり、ケアに取り入れ支援させている。 |
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居者が今まで築いてきた、大切な友人や、家族がいつでも訪問しやすい雰囲気作りを心がけ、知人・友人との会話から本人が大切にしてきた人や場所との関係を継続できるよう努めている。 | ○ | |
| 31 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | レクリエーションやカルタ、百人一首などいつも一つのテーブルに集まり利用者みんなで楽しんでいる。また入居者同士で、お互いの困っていることを話し合い、職員も話し合いの中に入り支援している。職員は利用者が、自然と声を掛け合えるような雰囲気作りを努めている。 | ○ | 一人である方があれば、職員が声かけし、孤独感がないように配慮し、皆と共に楽しんでいけるよう支援している。 |
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 病気で入院された後も、病院に面会に行き、退去となった場合でも家族の方には行事へ招待し、参加していただいている。 | ○ | 馴染みの関係の維持を大切にしたい。 |

| 項 目 | | 事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する | 今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて) |
|------------------------------------|--|--|--------------------------------|---------------------------------------|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 担当職員が中心となり本人や、家族から意向や希望を聴き、共に目標を立案し、達成できるよう支援している。困難な場合は職員が可能な限り本人の立場に立ち思いや意向を話し合い支援している。 | ○ | 利用者とのコミュニケーションを密にとり、思いや意向を知るように努めている。 |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 今までの生活歴を、家族や介護支援専門員より情報収集すると共に、日常の会話から情報収集し、その方らしく生活できるよう把握、支援している。 | | |
| 35 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 介護職員、看護師が中心となり、家事や体操等、日常生活身体状況や可能な能力について総合的な把握及び評価を行い、支援している。 | | |
| 2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 利用者、家族、担当、介護職員、医師、看護師、介護支援専門員等が身体的、精神的、社会的支店から情報・意見交換を行いながら評価し、介護計画を立案している。 | | |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 本人、家族、及び必要関係者の意向を踏まえ、3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。状態変化が発生した時は、随時カンファレンスを行ない、計画の見直し、検討を行っている。利用者の状況変化をとらえ常に現状に即した計画となるようにしている。 | | |

| 項 目 | | 事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する | 今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて) |
|---------------------------------|---|--|--------------------------------|---|
| 38 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者の日々の様子、ケアの実施内容や家族の意向等は申し送りやカンファレンスを通して情報を共有し、計画の見直しに反映するとともに、利用者のカルテに記録している。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 介護保健施設のクラブ活動への参加、催し物、夏祭り等を共に楽しみ、トロン温泉の利用や、利用者の状況に応じた機械浴の利用、リハビリ庭園の散歩、理髪、シャトル便での買い物、受診と併設施設の機能を最大限に活用し、日常生活を楽しんでいる。 | ○ | トロン温泉、理美容、シャトル便での買い物、ドライブ等施設の多機能性を活用し、利用者に柔軟な対応を図り活気ある生活を送っていただきたい。 |
| 4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | ○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 宝塚市介護相談員、自治会、消防署(消防訓練)、小学校児童・幼稚園児との交流、ボランティアによるクラブ活動、中学生によるトライやるウィーク、小学校新任教師の研修、日本看護協会の認定看護師研修などの交流を図っている。 | | |
| 41 | ○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 利用者や家族の意向に基づき、居宅介護支援事業所のケアマネジャーとの連携を図り、指導・助言を得ている。また、必要な自助具を含めた福祉用具などは、業者の紹介を行っている。必要に応じて訪問看護ステーションなどのサービスも活用し、入居者を支援している。 | | |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 地域包括支援センターからの依頼などがあった場合、相談を受けたり、利用者の暮らしについてアドバイスを受けている。 | | |

| 項 目 | 事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する | 今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて) |
|--|---|--------------------------------|-------------------------------------|
| <p>43</p> <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p> | <p>併設している介護老人保健施設に常駐している看護師を含めて、入居前から利用していたかかりつけ医と情報交換、連携を図っている。また、緊急時は協力医療病院(宝塚第一病院)との受け入れ態勢が整備されている。医師の診察時入居者の状況が把握しやすいように日々の記録がなされている。</p> | | |
| <p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p> | <p>併設している介護老人保健施設の施設長が認知症研修を受講しており、毎日職員からの情報を受け、利用者とコミュニケーションを図りながらそれぞれの認知症の症状や健康状態をチェックしている。必要時には協力病院である宝塚第一病院に受診し、診断・治療を受けることができる。</p> | | |
| <p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p> | <p>看護師が週2回定期的に健康管理を行っている。併設の介護老人保健施設の看護師は24時間体制で常駐しており、いつでも対応可能である。また必要時に応じて訪問看護ステーションの看護師とも連携を図っている。</p> | | |
| <p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> | <p>入院時には必ず介護サマリーを提供している。職員も面会に行き、主治医や看護師から状況を聞き職員間で共有している。</p> | | |
| <p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> | <p>施設としての方針のガイドライン、マニュアルを作成し、職員間で共有すると共に、家族への説明を行っている。利用者、ご家族の意向を考慮しながら個別に対応し、かかりつけ医とも連携を図っている。</p> | | |
| <p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> | <p>病状の進行状態を医師、家族、職員間で共有しホームでその人らしく生活していただく為に、ホームで出来る事、出来ない事についてカンファレンスを行ない、予想される病状変化について検討し、医師、看護師に情報提供し対応できるようにしている。</p> | | |

| 項 目 | | 事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する | 今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて) |
|-------------------------------------|---|--|--------------------------------|-------------------------------------|
| 49 | ○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 退所サマリーに入居中の細かな情報提供と共に、いつでも移り住んだ所の職員と情報の交換を行い、住み替えダメージを防ぐように努めている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | |
| 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 入居者に尊敬の念を常に持ち接している。人生の先輩に対する言葉使い、声かけや対応の仕方について、入職時のオリエンテーション、OJT、施設内研修の実施により、職員の意識の向上に努めている。また、このような研修等を通して利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底にも努めている。 | | |
| 51 | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 受け持ちの担当者が馴染みの関係作りや信頼関係のもと入居者が自分の思いや望んでいる事を表出しやすいよう支援している。入居者の能力を把握し、自己決定への支援をしている。自治会の「九重の会」においても自由に各自が意見を述たり、自己決定に対し支援している。 | | |
| 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者の要望に対し、速やかな対応が出来るよう職員はお互いに協力し合いながら業務を行ない、入居者と共に過ごす時間を作り、希望に添った支援が出来るよう努めている。入居者の行動パターンの把握に基づいた個別対応の実施に努めている。 | | |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | |
| 53 | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 洋服の購入や理美容の実施など、本人の希望に添ってできるよう、職員が家族と共に支援している。併設施設内でも定期的に理美容が行われており、ケアホーム入居者も利用できるシステムになっている。 | | |

| 項 目 | 事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する | 今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて) |
|---|---|--------------------------------|-------------------------------------|
| 54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 毎日のメニューを入居者の記入で掲示し、食事の準備や片付けをする時は、それぞれの役割を決め、全員が関わって楽しく参加している。毎月のランチパーティー、出前、外食は入居者の意見で決定している。 | | |
| 55 ○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | 外食時は、食前酒をクリスマス会やランチパーティー等で、シャンパンや梅酒、甘酒などで楽しんでいる。日々の談話の中で一人ひとりの好みについて情報収集し、食事会等に取り入れている。 | | |
| 56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 一人ひとりの排泄パターンを把握し、入居者個々の状況に応じてトイレ誘導を行っている。また排便を促すような体操や腹部マッサージ、食物繊維の多い食事、水分の補給などに努め、スムーズな排便を支援している。 | | |
| 57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入居者の希望にあわせて入浴時間帯や回数を決めている。また本人から入浴の希望があった時や、排泄で汚れた時にはいつでも入浴可能である。(24時間給湯可能)同フロアのトロン温泉や行事湯(菖蒲湯、ゆず湯など)を楽しんでいただいている。 | | |
| 58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 各職員は利用者の起床時間・入眠時間を把握し、入眠しやすいよう日中に活動的な生活をしていただいている。また、入眠しやすいよう午後7時頃に暖かい飲み物を提供している。入眠できない利用者には、ゆったりした気持ちで時間が過ぎせるよう話を聞くなどの支援をしている。夜間不眠であった場合は日中部屋でくつろげるよう配慮している。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | |
| 59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者が今までの人生で培った知識や得意とすることを日常的な役割(係り)として持っていたり、日々の生活の中で輝けるよう支援している。また、クラブ活動などを通して自己実現を目指し、達成感を感じていただけるよう支援している。 | | |


| 項 目 | | 事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する | 今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて) |
|-----------------------|---|---|--------------------------------|-------------------------------------|
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者の能力と心理的に安心できる範囲での金額をご家族と職員の了解のもと自己管理することを基本とし、所持していただいている。日々の生活の中で買い物や公衆電話・自動販売機などを利用していただいている。 | | |
| 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 施設のシャトルバスを利用し、外食やドライブ、スーパーマーケットなどへ買い物に行き楽しんでいただいている。地域行事にも積極的に参加し、散歩時には近隣住民との交流を図り、時には幼稚園にも訪問している。また、ご家族と定期的に散歩など外出している利用者もいる。 | | |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 自治会「九重の会」で、行事計画を立て、ドライブ(紅葉狩り、バラ公園、梅見、桜見、コスモス)に行っている。行事計画は毎月の通信で知らせ、ご家族も一緒に参加していただき、入居者の外出を支援している。 | | |
| 63 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 施設内行事(夏祭り、バラ公園散策、花見など)の招待状を利用者に書いてもらい発送している。家族や、友人と手紙を定期的にやりとりされている方もおり、入居者の中にはスタッフとポストまで投函しに行くなど個々に応じた支援を行っている。 | | |
| 64 | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 来訪者には利用者の大切なお客様として湯茶などでもてなし、ダイルームや居室・ロビー・リハビリ庭園など思い思いの場所で落ち着いてゆっくり交流が図れるよう支援している。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束マニュアルを作成し、研修会やケアホーム会議などで周知を図っている。リビングルーム前に広がるリハビリ庭園、同フロアに併設している通所リハビリテーションやロビーに自由に入出入りできるよう開放するとともに、安全に配慮しながら開放感のあるケアの提供に努めている。 | | |

| 項 目 | 事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する | 今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて) |
|---|---|--------------------------------|-------------------------------------|
| 66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 身体拘束を広義に捉え、入居者が閉塞感を持たずに生活できるよう居室、玄関は常に鍵をかけず、自由に入出りできるようにしている。 | | |
| 67 ○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 日常的に職員が見守りを行っている。またホーム内の死角部分には、モニターカメラを設置し、利用者の安全確認を行っている。入居者が、監視されているという意識を持たないように安全確認するよう配慮している。 | | |
| 68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 一人ひとりの認知能力におうじて、管理できるものは自分で管理していただいている。針や刃物など危険なものは、職員と一緒に使用し、最後の後始末まで見届けている。 | | |
| 69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 事故防止対策マニュアルの周知とマニュアル遵守を徹底している。収集されたヒヤリ・ハット事例の分析や対策について協議し、再発防止に取り組んでいる。また、利用者一人ひとりの状態を把握し、カンファレンスでその都度協議し情報の共有に努め、介護の工夫を図り事故防止に努めている。 | | |
| 70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 事故防止対策マニュアルは高齢者に多い事故発生時の対応についてまとめている。カンファレンスや研修会を開催し知識・技術について習得している。人口呼吸やAEDの活用について理論と実技について訓練し、急変時や事故発生時に備えている。 | | |
| 71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 防災マニュアルを作成し、施設の防災設備を周知している。年2回の消防訓練は利用者の方も参加し実施している。地域の方々にも協力を得るよう、行事、研修会に参加していただき理解していただいている。 | | |

| 項 目 | | 事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する | 今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて) |
|----------------------------------|--|--|--------------------------------|-------------------------------------|
| 72 | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | 既往歴や現病名、病状を主治医より情報を得て今後出現する可能性のある病状や症状についてカンファレンスを行ない、利用者のQOLを最大限に考慮し家族参加のもとに検討している。検討結果は看護師に情報提供すると共に職員間で情報を共有している。 | | |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 申し送り時に情報を共有している。異変を発見した時は直ちに医師、施設長、看護師に報告し、必要に応じて家族に連絡し医師または主治医の診察を受けている。 | | |
| 74 | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員は利用者の一人ひとりの薬の効能・副作用について周知し病状の早期発見に努めている。服薬確認を徹底している。 | | |
| 75 | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行うと共に、水分補給や腹部マッサージ、リハビリ体操を取り入れ排便を促すよう支援している。 | | |
| 76 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 起床時の嗽、毎食後の歯磨き、嗽を確実に実施している。自力で出来ない利用者には職員が援助し、口腔内の清潔保持に努めている。 | | |
| 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者一人ひとりの栄養状態や嚥下状態を把握し、食べやすい食事形態にしている。水分量をチェックし、一日の摂取量を把握している。摂取量が少ない場合はスタッフ間で情報共有し、必要量が摂取できるように支援している。 | | |

| 項 目 | | 事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する | 今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて) |
|--------------------------------|---|--|--------------------------------|-------------------------------------|
| 78 | ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等) | 感染対策マニュアルを作成し、日々予防対策を実施している。起床時の嗽、手洗いを徹底し、特にホーム外に出た時は、手洗い・嗽の徹底に努めている。 | | |
| 79 | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 包丁、まな板、調理用具、布巾は使用の都度清掃を行ない、塩素系消毒液での消毒を行っている。食材は新鮮な食材を使用する為にその都度買い物に行っている。作り置きはしない。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | ホームの玄関前には季節のお花をプランターに植え、利用者で作成した表札を掲げるなどし、親しみやすい雰囲気作りに努めている。 | | |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングからはリハビリ庭園が見渡せ、四季折々の花が咲き、小鳥も飛んできている。蹲で水を飲む姿や泣き声を楽しんでいる。リビング内には、協同作品、季節に応じたおひな様や五月人形を飾り、季節感を演出している。 | | |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 気のあった利用者で話をしたり、家族とゆっくりと談笑できるようリビングにはソファや椅子、テーブルが置いてある。百人一首、塗り絵、読書、ピアノを弾く人思い思いに過ごしている。共有空間にあっても思い思いに過ごせるよう配慮している。 | | |

| 項 目 | 事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する | 今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて) |
|---|--|--------------------------------|-------------------------------------|
| <p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>居室には使い慣れた家具や馴染みの調度品を置き、本人が安心して暮らせるよう工夫している。</p> | | |
| <p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p> | <p>各部屋で空調管理が可能であり、利用者の体調と体感に基き、空調管理を行ない、また、外気を感じていただけるよう換気に心がけ自然の風邪を入れている。更にシーツ交換、清掃時には必ず窓をあけ換気を行っている。</p> | | |
| (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | |
| <p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p> | <p>利用者一人ひとりの能力が活かせるよう、趣味、得意とすることを取り入れ、楽しみながら身体機能が維持・向上するよう配慮している。</p> | | |
| <p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p> | <p>それぞれが役割を持ち、自分らしい生活が送れるよう、能力に合わせた役割分担を行ない、自立支援を行っている。</p> | | |
| <p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p> | <p>ホームのすぐ前には庭園があり、自由に入りが出来る。庭園では鉢植えや菜園の世話、収穫などを楽しんでいる。季節ごとに収穫した野菜(じゃがいも、トマト、ナス他)と一緒に調理して食卓に並べている。</p> | | |

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

| V. サービスの成果に関する項目 | | |
|------------------|--|---|
| 項 目 | | 事業所が示す、取り組みの成果 (該当する箇所の番号の前に○印をつける) |
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 94 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない |
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない |

| 項 目 | | 事業所が示す、取り組みの成果 (該当する箇所の番号の前に○印をつける) |
|-----|---|--|
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | <input checked="" type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない |
| 98 | 職員は、活き活きと働いている | <input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1、受け持ち性を導入し、その人らしさを尊重して信頼関係に基づいた安全・安心の支援
 2、職員が達成感・充実感が持て、理念が達成できる人材の育成と支援
 3、地域との連携強化